

令和7年度取組状況

ものづくり工学科 電気電子工学コース准教授 石崎明男

取組状況	
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての担当科目で、非講義型の学習(アクティブラーニング)を実施した。 ・第4、2学年の科目で、質疑応答を重視した授業を実施した(評価中心の授業)。多くの学生に、多くの質問を投げかけ、即時フィードバックを行った。学生間の相互評価も取り入れ、メタ認知(自身の学びを振り返る力)の育成も促した。なお、被評価者に評価者が特定されないよう、相互評価はLMS上で構築している。 ・第3学年の科目で、質問駆動型の学習(Problem Based Learning)を実施した。学生は教科書やAIを援用して質問に解答していくことで、既存知識を使って新しい知識を構築していく(知識中心の授業)。 ・第2学年の科目で、学生ごとに異なる進度で毎回CBTを行った(学習者中心の授業)。受講者は、24種類の試験を合計2441回受験していた(一人当たり平均61回、授業回数15回)。このCBTはRPG風にストーリーを進めていく(ゲーミフィケーション、エデュテイメント)。なお、CBTはLMS上で構築している。 ・担当の全座学で、回路の設計製作を行わせ、学習内容の有用性を知ってもらうとともに、回路づくりにおける問題発見・解決を体験させた。設計製作は、少人数のグループで取り組ませている(共同体中心の授業)。グループワークを通じて、社会性などの非認知能力の育成を促した。 ・すべての担当科目でLMS(moodle)を援用した。これにより、学生側からは授業情報へのアクセス性を高め、教員側からは授業事務の効率性を高めた。LMSのハードウェア、ソフトウェアの保守管理も行った。 ・第3学年の実習科目のデザイン思考の単元では、企業からテーマを提供してもらい、校外の方へのインタビューを引率するなど、校外組織と連携した教育を実践した。 ・大田区の小学校のデザイン思考の授業のコンサルティングを行うとともに、ガイダンス授業および最終発表会講評も行った。 ・進路指導では、進学ガイダンス(3回)と補講(120分×5回)を行った。加えて、進路のウェブページに入試過去問の解答を掲載したり、受験者の統計データの更新を行った。これらのウェブページはLMS上に構築されている。 ・コース広報を担当し、電気電子エネルギーコースの教育実践を広く知ってもらう。広報活動との因果関係は明確ではないが、推薦入試において、コース選択優先権の電気コース希望者は増加した。また、第四四半期のコースHPの新規ユーザーは525人であった(ほぼ例年と同じ)。 ・コース・リニューアルに伴い、新カリキュラムの検討、実験テーマの選定・設計、教室レイアウトや機器の選定、次年度の予算の見積の検討を行った。これらを通じて、これまで以上に、協同・共創を育むプロジェクト型学習を行いやすい環境を整備した。 ・時間割を工夫し、クォーター開講(短期集中開講)により学習促進を図るとともに、進路のための自主学習時間を確保しやすくなるようにした。
研究	教育に統合
社会貢献	技術相談、受託研究、産学公連携、OPC講座、出前授業を行う時間は無かった。